



上・ほ場整備計画は、各人の意見と主張がゼミナルとなり効果的な案が出来上っていく。(七城村にて)

右・県の計画段階では関係部門の職員が集って研究を重ねている。



農地集団化では、何よりもまず個人の土地所有者でよく話し合いが行われる。だから新たな共同営農の計画が生まれることも多い。(沼水町にて)



農業の能率化は産業革命の頃から叫ばれてきた。そして近頃では農業機械はいよいよ大型化へ。
そして農業構造改善事業の基幹となるものはどうしても農地の集団化なのである。



下・みかん園の集団化を進めている岱明村



右・構造改善事業も農地整備で活発に進められている。下・畑作業も機械力でスムーズに、能率的に……



営農計画は農地集団化から

農地集団化といっても、土地を運んで集めるわけにはいかない。分散している農用地を他の関係の中で、交換、換地処分によって集められる。農地集団化計画の前には、個々の農家や村の農業計画に目を向けなければならない。

ほ場が大型化すれば、農業機械化も自然と活発になってくる。(写真は沼水町にある農林省機械化実験集落にて)

